



## なぜ「企業のエシカル通信簿」を創るのか？

環境市民 代表理事

消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク 共同代表幹事

すぎもと  
枚本 育生



### ★SDGs とエシカル消費

今、私たちの人類世界は大きな危機を迎えています。気候変動をはじめとする様々な地球規模の環境問題、新型コロナウイルス感染で明らかになった感染症のパンデミック、さらには大国による侵略戦争、エネルギーの不足、食糧の欠乏などなど。これらをはじめとする持続不可能性の諸問題に対して、国連が中心となり多様なセクターの参加を得て 17 の課題と目標にまとめたものが SDGs です。日本でもこの数年、国、自治体、企業、NPO を問わず大きな話題になっています。

課題の主なものは、飢餓や貧困、格差、資源浪費、平和、公正などの社会的課題、そして、海洋汚染、森林破壊、エネルギー、気候変動などの環境問題です。これらの課題を克服できなければ人類世界に未来はないとまとめられ、2030 年までに克服すべき目標がかかげられています。このような大きな多くの課題に対して市民が日常的に行なえる効果的な行動はあるのでしょうか？ 答えは YES です。それが**エシカルコンシューマー活動**です。

エシカルとは「倫理的な」、コンシューマーは「消費者」です。私たちが日常的に生活行動としている製品やサービスの買い物の際、その買う製品・サービスを選ぶ基準として、品質、価格、

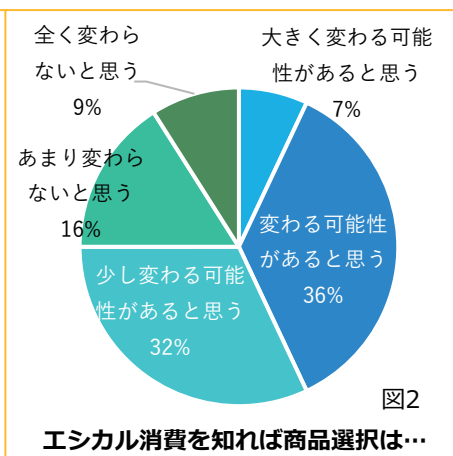
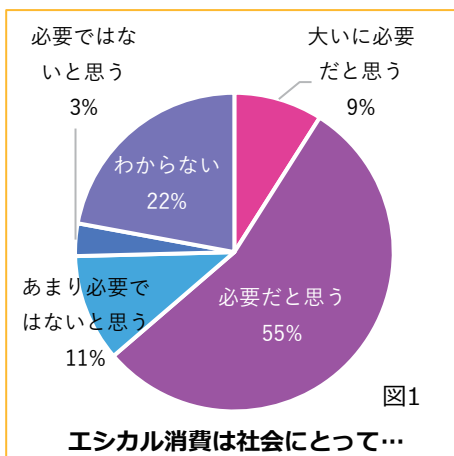
機能などの他に、環境への影響、人権への影響等を入れて、製品・サービスやメーカー・販売店を選ぼうということです。例えば冷蔵庫を買い替えるときに、「現在販売されている製品の中で最も年間電気消費量が少ないのは A 社の B という製品だ、しかも A 社は企業としても地球温暖化問題に熱心で工場の屋根にソーラー発電の設置等をしている。又ジェンダー平等にも熱心で女性社員の昇進も男性社員と平等に取り組んでいる。だから A 社の B という製品を選んで買おう」と考え、そのような選択で買い物をする人を**エシカルコンシューマー**と呼びます。

こんな**エシカル消費**には消費者の共感が得られるのか、環境市民が京都府の委託をうけて、消費者の考えを調べたアンケート調査結果では、エシカル消費の考え方、行動は社会にとって「必要だと思う」「大いに必要だと思う」と回答した人が全体の 3 分の 2 を占めました(図 1)。さらにエシカル商品等を知れば、商品選択は「変わる可能性があると思う」「大きく」「少し」を含むと答えた人は 7 割以上でした(図 2)。

### ★企業のエシカル通信簿をつくった背景

このような考えの消費者が実際に行動に移せば、市民のライフスタイルに留まらず、企業の取り組み、行動にも大きな影響を及ぼすことが期待できますが、そのためには、商品・サービスや企業そのものの環境、人権、社会に関する活動や影響に関して、分かりやすく、信頼できる情報が必要です。日本社会ではこのような情報はあまり出ていませんでしたが、今や世の中が変わりました。

<次ページへ続く>



<前ページより>

多くの企業が、SDGsに会社の存亡をかけて取り組むようになり、その成果情報を、サステナビリティ報告書、統合報告書として発信するようになり、また ESG 投資の浸透により株主向けにもこのような情報の発信が求められる社会になりました。ただ、その情報を読み解く力と情報の真偽を確かめる力が消費者に求められます。それを各分野で専門性のある環境 NGO、人権 NGO、消費者 NGO のネットワーク（消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク）で情報を集め、分析評価し、分かりやすい情報に加工して発信する活動を 2016 年度から始めました。名称は「企業のエシカル通信簿」。

### ★企業のエシカル通信簿のつくりかた

毎年度、1~3 業種の売上額の大きな企業 5 社ぐらいを対象に、まずネットワークが公開されている情報から調査票をチェックして第 1 次回答書を作成し、当該企業に送信し、回答内容を確認してもらい、変更等の意見がある場合はそれを返信してもらいます。この回答にもとづき第 2 次回答書を作成するという過程を数回繰り返し、調査票を完成します。昨年度までに 10 事業種の計 58 の企業を対象にエシカル通信簿を作成してきました。

調査項目は「サステナビリティ体制」「消費者の保護・支援」「人権・労働」「社会・社会貢献」「平和・非暴力」「アニマルウェルフェア」「環境」の 7 分野で、それぞれの取り組みを市民・NPO 目線で調査し、各分野を 10 点満点でレーティング（段階）評価をして、結果を公開しています。あえて総合評価はしていません。それはこのエシカル通信簿を見る人により、分野の重要度は異なるからです。「環境」はガバナンス、気候変動、ごみ削減、生物多様性、化学物質、水に分けて調査し、その結果も発表しています。レーティング評価結果からは、同事業種の企業間の差はありましたが、それ以上に事業種間の格差が大きくなりました。これは国際的に事業をしている企業や事業種に対しては海外の NGO から厳しい目

が向けられ、それに対応して多様な取り組みが行われている結果であると思われます。

### ★企業にとってのエシカル通信簿

調査結果とレーティングは発表会を開催し、調査対象の企業をはじめ、このような取り組みに関心のある企業、NPO、専門家、メディアなど、毎回多くの参加者を得ています。

当日、参加された対象企業の担当者からは「他の CSR 関連の調査とは違う項目があり、消費者からどう見られているのかがわかり、多くの気づきがあった」「調査に答えることで、今後は企業として武器になるのではないか」「企業内の各担当部署に問い合わせることで、問合せ先の部署とも活発なディスカッションができた。消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワークとのコミュニケーションも意義深かった」「分野ごとに専門家がついているので、公平的・専門的で安心できた」「自社のことながら、これまであまり意識していなかったことにも触れていたの、深く理解し直すことができた」「取り組むべき課題が明確になった」「非常に深いところまでよく掘り起こし、詳しく調べてくれていて、嬉しかった」等と、今後ともこのような活動を続けるのに肯定的な反応が得られました。発表会は異なる社会セクターの者が社会的課題に対して意見交換する場、対面コミュニケーションを図る場としても貴重な機会になっています。

★★★

なお、企業のエシカル通信簿の結果等については、「消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク」のサイトで常時開示しています。

(<https://cnrc.jp/>)

また、中小企業も調査・評価すべきという意見が多く寄せられたので、それに対応して、企業自らが自主調査に取り組む形式でプロジェクトをはじめめています。



消費から  
持続可能な社会をつくる  
市民ネットワーク



### 当協会も「市民目線の中小企業者サステナビリティ自主調査」への取組に参加しています！

本調査は、「消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク (SSRC)」の一員である環境 NGO『環境市民』さんが始めたもので、中小企業向けエシカル通信簿ともいえるものです。企業が当たり前のこととして環境問題に取り組まなければいけなくなった今日、本調査は、企業それぞれが自分の立ち位置を知るにうってつけと考え、当協会でもこの取組に参加しています。 事前研修風景 (2023/1/19 当協会) →



世論調査

環境と暮らし 2023

例年、長野県世論調査協会と共同で実施している世論調査「環境と暮らし」の2023年度の結果がまとまりました。



●SDGsの認知度

環境問題に関する言葉を尋ねたなかで、「SDGs」を知っているとの回答は、全体で63.5%となりました。昨年の調査結果では、58.8%と5割を超す認知度となりましたが、さらに知られるようになってきました。とりわけ18~20代では9割を超えるとともに、70代以上でも45.5%とようやく5割に迫る結果となりました。(※グラフ)

●あなたは はじめていますか？

エシカル消費につながる行動

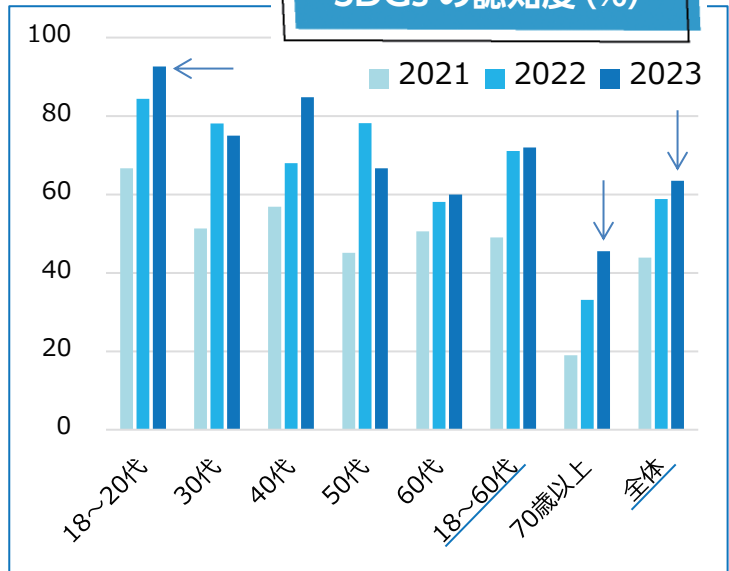
エシカル消費につながる行動について実践しているものをお尋ねすると、①「マイバッグ・マイ箸・マイカップ等の利用」(79.6%) ②「電気をこまめに消す等の省エネ」(75.8%) ③「食品ロス削減」(59.3%) ④「地産地消」(50.1%)と、多くの方が実践していらっしゃいます。しかも、青字の項目は昨年と比べ約5ポイントもアップしました。

しかし、「エシカル消費」という言葉についての認知度を調べると、一番高い30代で29.5%、全体では18.2%とまだまだ浸透していません。エシカルという言葉が難しいのでしょうか？

今回の巻頭記事(※1~2ページ)ではエシカルについて取り上げましたが、理解が深まってほしいものです。

また、7月29日(土)には「2023 エシカルふえす in NAGANO」が、「つくる エシカル 十人十色の心地よい消費」をテーマに、長野市役所西側広場「桜スクエア」と展示サロンを会場として開催されます。お時間のある方は覗いてみていただければ幸いです。(※6ページ)

SDGsの認知度 (%)



再配達削減キャンペーン

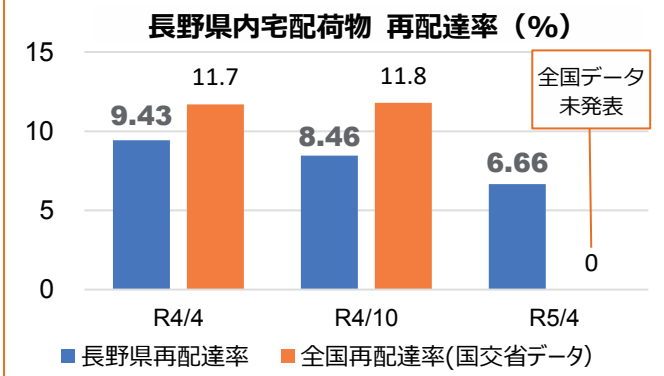
ながの再配達削減プロジェクト(事務局:県及び市センター)で昨年からはじめた再配達削減キャンペーンでは、504事業所(令和5年6月1日現在)と多くの事業者の皆様から賛同をいただきました。

おかげさまで、長野県内の再配達率は順調に減少しており、全国よりも2~3ポイント低い値です(※グラフ)。

同プロジェクトでは、職場受取を行う賛同事業所を募集するキャンペーンを引き続き実施するとともに、今年度は新たに、学生を対象とした置き配バッグによる実証事業を行うこととしています。



長野県PRキャラクター「アルクマ」  
©長野県アルクマ



実証事業を行うこととしています。

この事業は、県内の大学に通う学生を対象にモニターを募集し、置き配バッグを一定期間貸し出し、宅配(置き配バッグ)の利用状況や事前・事後の意識調査についてのアンケートに回答してもらい、その効果を実証するものです。詳しい内容については、再配達削減キャンペーンの専用サイトをご覧ください。



\*ヤマト運輸(株)、佐川急便(株)、日本郵便(株)からご提供いただいたデータを事務局で取りまとめました。

—海なし県・信州から海洋ごみ問題を考える—

チェンジフォーザブルー  
**CHANGE FOR THE BLUE カードゲーム体験記**

4月29日、飯田市・ムトスぷらざで行われた、海洋ごみ問題を考えるカードゲーム「CHANGE FOR THE BLUE」体験会に参加しました。

参加者はまず、農家や漁師、役場、工場など12の班に分かれます。私が所属した「メディア」は3人。前の席には「木こり」が2人。

予め配られた「仕事カード」と「生活カード」各8枚からどのカードを使うか班で話し合って決めます。

「仕事カード」「生活カード」を1枚ずつ選んで「事務局」を持って行くと、カードに書かれた行動が実行されたとみなされます。

「仕事・生活カード」に対応する「リザルトカード」の指示に従い、ホワイトボードの「まちの状況を表すメーター（市民意識／技術／便利さ／ごみ・よごれ）」のマグネットを付けたり取ったり、変化させます。

これを全チームで4回繰り返し、最終的に「海ごみゼロ」を目指します。

ゲーム開始時には「市民意識」が低く、「ごみ・よごれ」が多い状態。我々メディア班は、まずは広く発信しなければと考え、「環境問題をSNSや動画で伝えよう」を選びました。

2回目、「市民意識」が高まってきていたので、「外国の様子を伝えよう」を選択しましたが、「ごみ・よごれ」が多かったため、どのメーター

にも影響を与えられませんでした。また、国内の現状を伝えることを優先すべき時期でした。

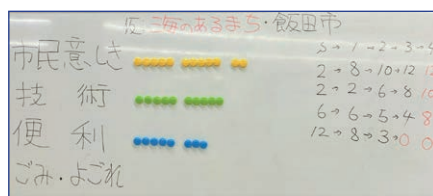
このカードを今実行するとどういった影響があるか、リザルトカードを見るまでわかりません。まちの状況を踏まえつつ、あれこれ予想しながら対策を講じるのは、現実に近いと感じました。

最後、「ごみ・よごれ」が1つ残って終わりそうでしたが、「市民意識」「便利さ」「技術」全て高かったため、「プラスチック製品は使わない」という究極の厳しいカードを使うことを決め、目標を達成することができました。

先進7ヶ国（G7）気候・エネルギー・環境相会合で、海洋プラスチックごみによる新たな汚染を2040年までにゼロにする目標で合意しましたが、残り僅か17年！対策が急務であることを

切実に感じた2時間でした。

（県センター 田中陽子）



**あなたも CHANGE FOR THE BLUE カードゲーム を体験してみませんか？**

信州環境カレッジ主催講座として、県内4ヶ所で、「海なし県『ながの』から海洋ごみを考えよう！」を行います。カードゲームを通じて、海洋ごみ問題への理解を深め、何が影響するか、自分は何をすればよいかを参加者全員で考え学びます。海洋ごみ問題に関心のある方、カードゲームに興味のある方、ご参加お待ちしております。詳しくは信州環境カレッジホームページへ☞



**7月9日⑧松川町（南信）＊7月27日⑨長野市（北信）＊東信・中信も計画中！**



## 第 11 期県推進員委嘱式・研修会が行われました

長野県は、第 11 期の長野県地球温暖化防止活動推進員(任期:2023 年 6 月 1 日~2025 年 5 月 31 日)として、10 代~80 代までの 43 名に委嘱しました。

委嘱式は 6 月 16 日に長野市生涯学習センターで行われ、推進員を代表して松本市の山本喜昭さんに、県環境部 高倉明子次長から委嘱状が手渡されました。

続く研修会では、一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット事務局長 平田裕之氏に「これからの推進員に求められること」について基調講演をしていただきました。

長野県ゼロカーボン戦略、県センター事業の説明の後、「ゼロカーボンに向けた具体的な行動をするにはどうしたらよいか」についてのグループディスカッションも行われ、活発な意見交換の場となりました。

推進員は“地球温暖化対策のナビゲーター”、出前講座などのご希望は県センターまでお問い合わせください。



## 市センター 久しぶりの出前講座

環境出前講座は、新型コロナウイルス感染症の蔓延を受けて 3 年間、中止や延期となっていました。今年に入って盛んに開催されるようになってきました。

＊4 月 20 日には「**家庭でできる温暖化対策出前講座**」が、松代公民館で地元の皆さんを中心に開催され、30 名の参加がありました。参加された方は熱心にメモを取られるなど関心の高さを感じました。【写真左】

＊4 月 29 日には長野市立博物館で「**科学おもちゃ体験**」と題して色々な発電実験や省エネ実験

機器を体験していただきました。手回し発電機を使って LED と白熱球の比較体験をした親子は、白熱球の方がハンドルが重くなることに驚いた様子でした。小型デジタル地球儀「スフィア」の実演では、地球の今の雲の様子や過去の地震のデータなどを解説しました。質問を沢山投げかける子どももいて、楽しい出前講座となりました。参加者は大人 31 名、子ども 27 名、合計 58 名でした。秋にもまた開催したいと考えています。【写真右】



## 「ゼロカーボン」に向けた CM コンテスト

脱炭素社会に向け、  
ライフスタイルの転換をよびかける  
30 秒 CM 動画をつくりませんか？

どなたでも参加できます。  
個人・グループは問いません。  
最優秀作品は長野朝日放送で放映予定！  
詳しくは信州環境カレッジ HP へ。



SBC  
第14回  
2023  
NAGANO  
**大人の文化祭**  
6/3(土)4(日)  
会場 エムウェーブ  
長野市北野1195




ふんわりアクセルeスタート♪

昨年は、新型コロナウイルス感染症対策もあり、遠慮がちに開催された「大人の文化祭」でしたが、今年は大勢の来場者・出展者がありコロナ以前の賑わいが戻っていました。

自動車のEV\*シフトは世界的な潮流ですが、日本はややこの流れに乗り遅れている感があります。日本の各メーカーともEVへの取組を進めてはいますが、EV車が一般に普及するにはもう少ししばらくかかるものと思われます。\*電気自動車 (Electric Vehicle)

こうしたことから、今回当協会は出展ブースにエコドライブシミュレーターを設置し、従来型の乗用車を運転している人を対象に「エコドライブ」に挑戦していただきました。エコドライブはCO<sub>2</sub>排出量削減による環境への貢献だけでなく、交通事故防止や燃費の効率化によりお財布にもやさしいという効果もあることを、今回挑戦された方には認識していただけたと思います。👉環境省等で「エコドライブ 10のすすめ」を公表していますので参考にしてください。👈





信州環境  
フェア  
2023

# Action for ゼロカーボンフォーラム

入場無料

**2023年7月29日[土] 長野市芸術館・長野市役所**

トークイベント 12:00~17:00 [開場]11:30 3F アクトスペース

◆13:00~14:00 基調講演  
「二酸化炭素を食品やプラスチックに変える  
:カーボンリサイクルの可能性」  
信州大学農学部 准教授 伊原 正喜先生

◆14:00~14:45 ゲストスピーカー  
「個人アスリートとして  
温室効果ガス排出量実質ゼロに挑む」  
ノルディックスキー複合選手(北野建設所属)  
渡部 暁斗選手


◆15:00~17:00 事例・取組発表

\*事前申込要。申込はこちらから👉  
定員 200名(自由席)  
【主催・お問合せ】  
信州環境フェア実行委員会  
☎026-236-3333  
(事務局 信濃毎日新聞マーケティング局内)

当協会・県&市センターは実行委員会のメンバーです

同時開催

**2023 エシカルふえす in NAGANO**



八十二銀行(北信支部)様よりご寄付をいただきました。ありがとうございました。

エコカー購入マイカーローンの金利の一部を、5年連続ご寄付いただきました。  
環境保全の活動に使わせていただきます。



【発行元】〒380-0835 長野市新田町 1513-2 (82 プラザ長野)

☐「エコシン」は「エコ信州」の略称です  
2023年7月7日発行

●一般社団法人 長野県環境保全協会

TEL:(026)237-6620 FAX:(026)238-9780 E-mail:nace@janis.or.jp https://nace.main.jp/

●長野県地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6625 FAX:(026)238-9780 E-mail:nccca@dia.janis.or.jp https://nccca.or.jp/

●長野市地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6681 FAX:(026)237-6690 E-mail:eco-mame@dia.janis.or.jp https://www.eco-mame.net/

